

ビデオ変換器の特性測定
 —— 100kHz以下のビデオ帯出力振幅特性 ——

T. KONDO

1. 測定方法

図1に示される方法でビデオ変換器（以下VC）の100kHz以下の出力振幅特性を測定した。

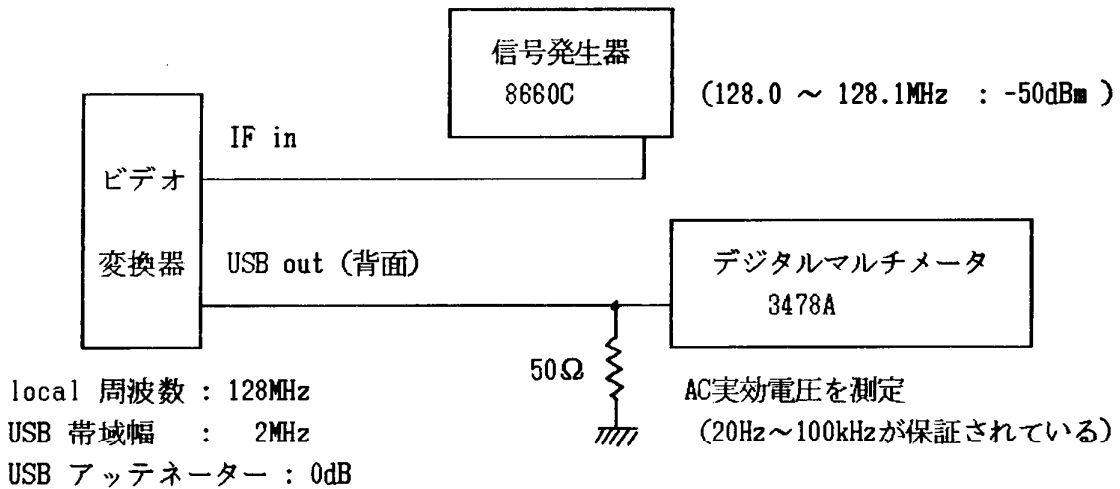


図1. 測定方法

2. 結果

1986年 3月 4日（室温27°C）に測定した結果を図2～4に示す。図では、マルチメータで読みとった実効電圧をパワー(dBm)に変換して示している。10kHz（つまりPCAL信号周波数）以上での振幅特性はVC7を除いてフラットである。VC3は比較的の低周波200Hz くらいまで特性が伸びている。100Hz 以下ではビデオコンのシステム雑音が検出されていると考えられるが、このシステム雑音はVC7を除いて、マルチメータの有効帯域あたり約-31dBmとなっている。VC7だけシステム雑音が異常に大きく(-19dBm) となっている。

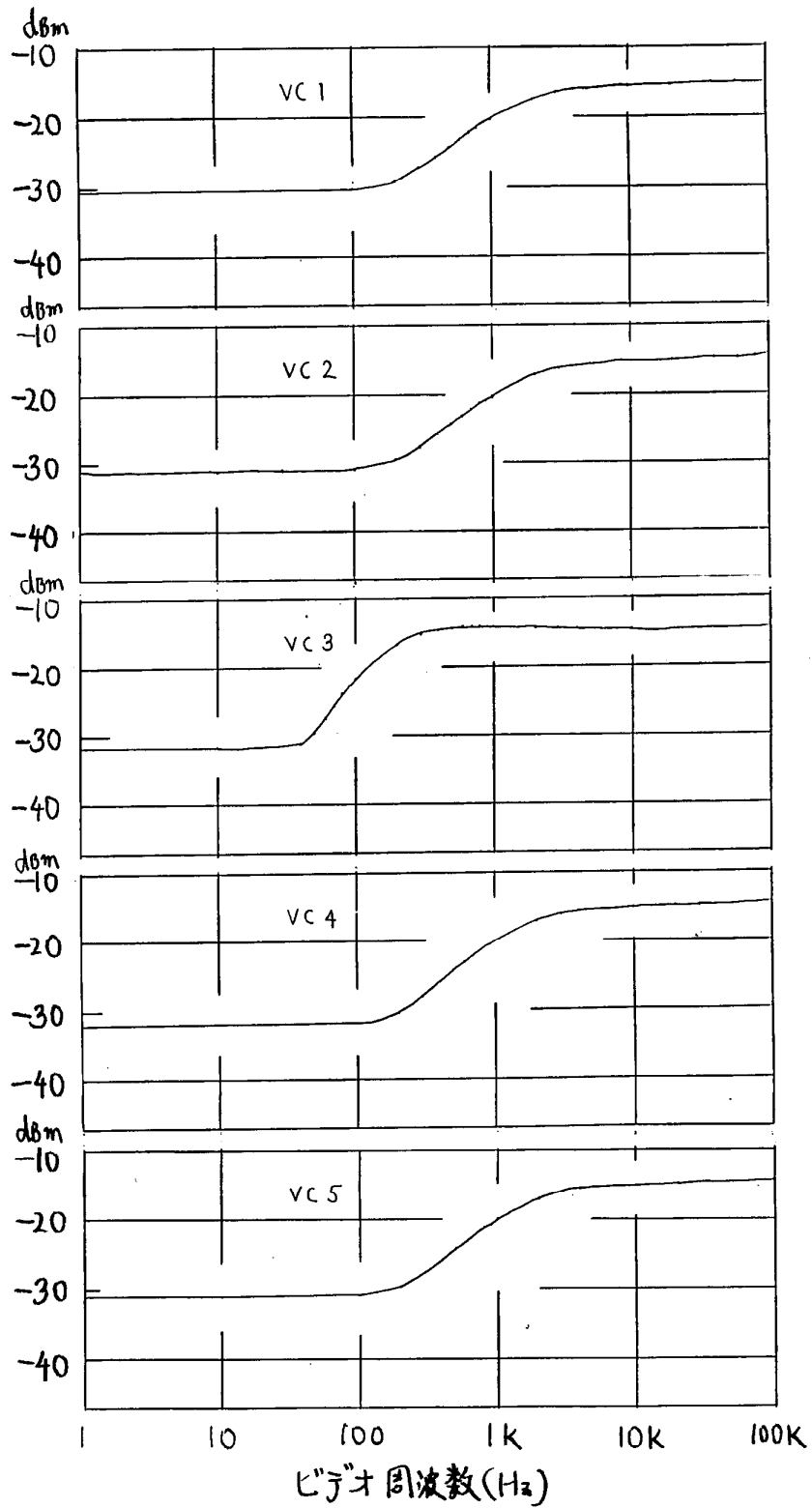


図2 . VC 1 ~ 5 の特性

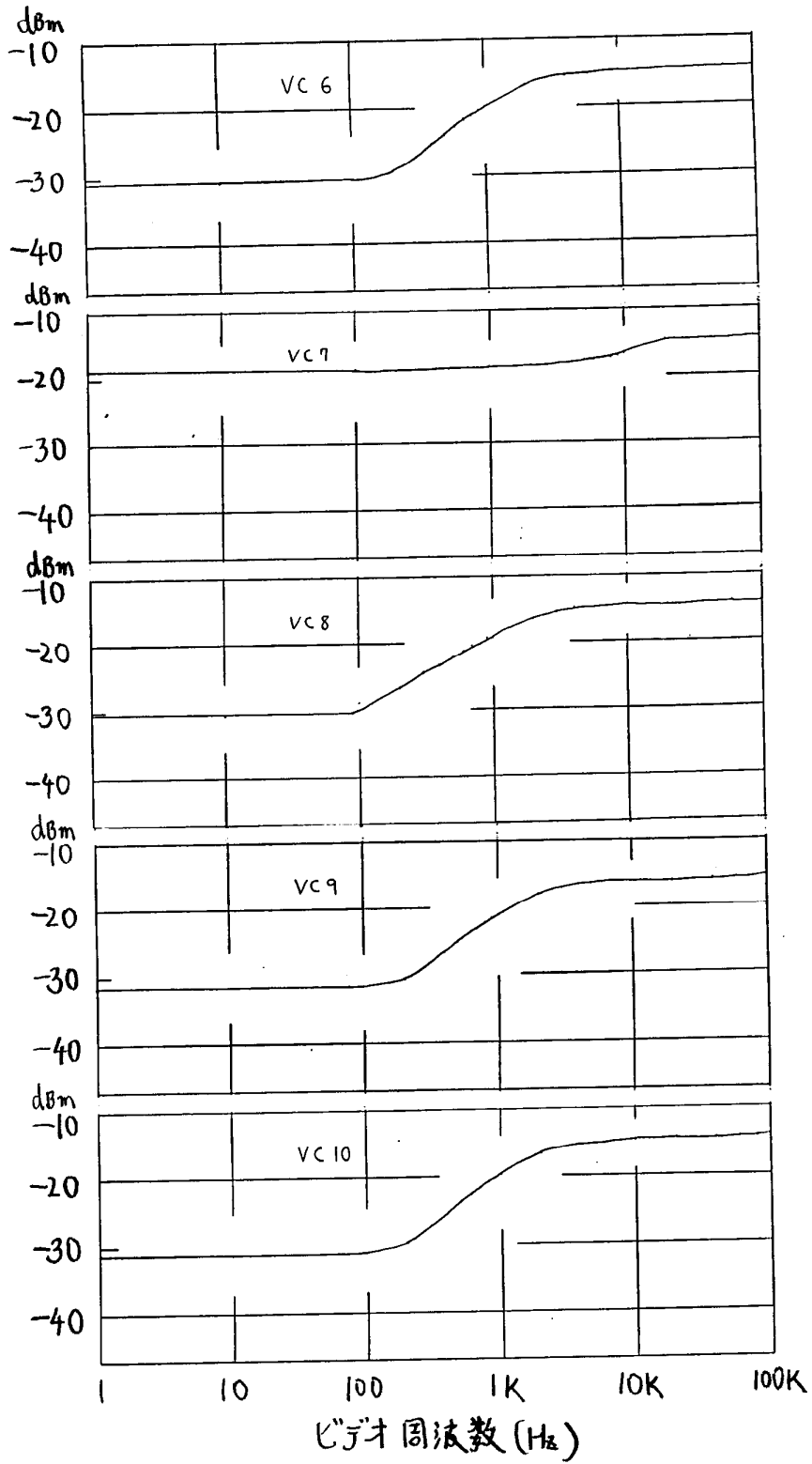


図3 . VC 6~10の特性

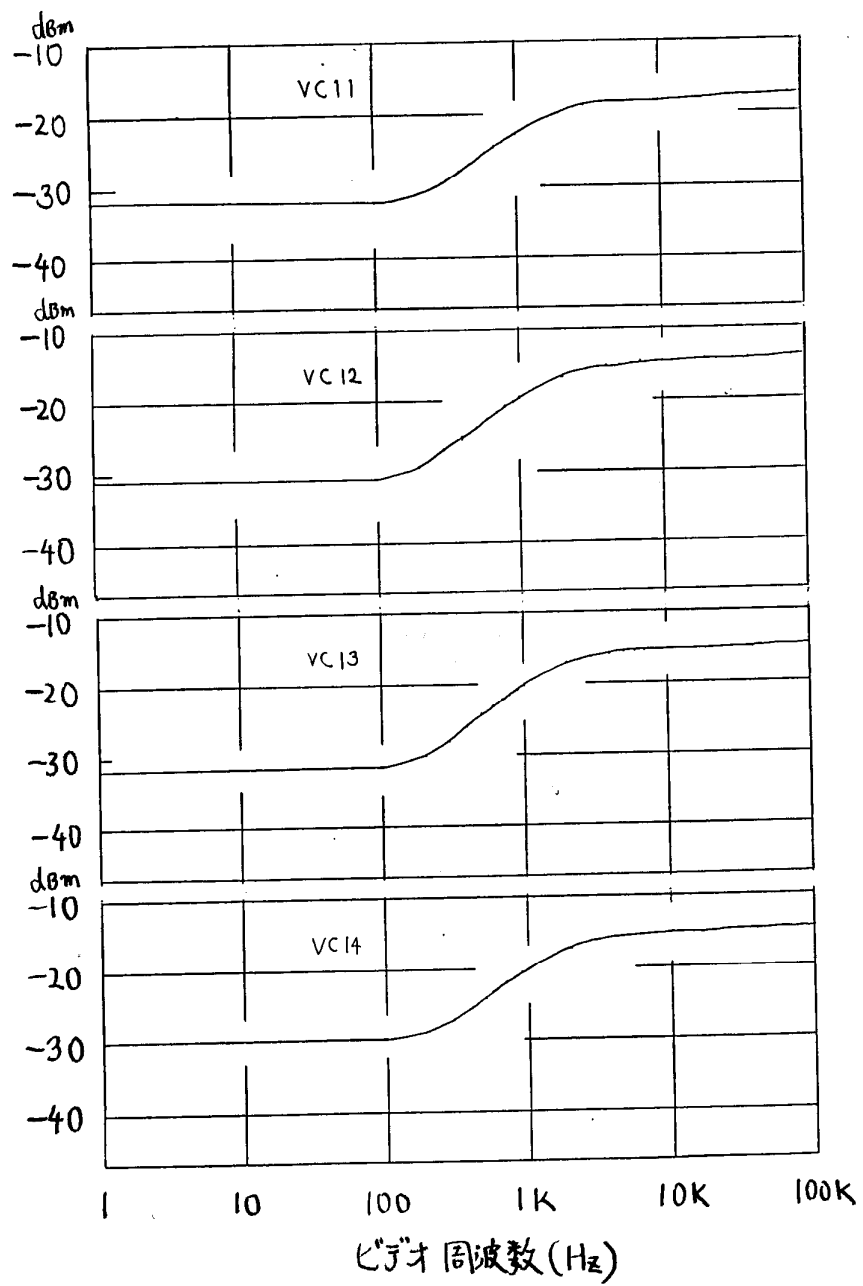


図4 . VC11~14の特性